

Milestones



加藤孝造《瀬戸黒茶碗》2002年

Kato Kozo

×

Ito Keiji

加藤孝造

×

伊藤慶二



伊藤慶二《壁顔》2013年

瑞浪市陶磁資料館

2021.

11.20(土)

2022.

2.20(日)

9:00 — 17:00

会場 瑞浪市陶磁資料館 加藤孝造展示室、企画展示コーナー

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎週月曜日・祝日の翌日、

資料整理休館日（11/30・2/1）、年末年始（12/28-1/4）

※詳細につきましては、瑞浪市陶磁資料館ウェブサイトをご覧ください。

観覧料 200円、一般団体（20名以上）150円、高校生以下無料

主催 岐阜県現代陶芸美術館、瑞浪市教育委員会

お問い合わせ 瑞浪市陶磁資料館

〒509-6132 瑞浪市明世町山野内1-6

電話：0572-67-2506



荒川豊蔵
《志野水指》1938～41年



五代加藤幸兵衛
《萌黄金彩水指》1960年以降



日根野作三
《楽茶碗》1949年頃



加藤孝造《赤絵輪文文壺》1958年頃



加藤孝造《志野茶盃》2013年頃

戦後から現在にかけて、美濃焼は様々な道筋を歩んできました。この度の展覧会では、その道標として瑞浪市出身の加藤孝造と土岐市出身の伊藤慶二を取り上げます。学年は異なるものの、二人はともに1935年生まれ。多治見工業高等学校で油絵を通して出会ってから、約70年来の友人です。共に勤めた岐阜県陶磁器試験場時代、それぞれ五代加藤幸兵衛、日根野作三の薫陶を受けました。その後、加藤は桃山陶の伝統の追求へ、伊藤は美濃における陶のオブジェ制作に早くから取り組み、各々の道を切り拓いてきました。

本展では、荒川豊蔵、五代加藤幸兵衛、日根野作三の作品に加え、過去から近作を通して二人の軌跡と“今”をご紹介します。岐阜県現代陶芸美術館のコレクションより厳選した珠玉の名品約20点と、近作が示す道標（Milestones）^{マイルストーンズ}を手がかりに、伝統と革新を象徴する二人をつなぐこの地の文化を感じていただければ幸いです。



伊藤慶二《水鳥》1990年



伊藤慶二《小さな角紋》2001年



加藤孝造 × 伊藤慶二



1935年、岐阜県瑞浪市に生まれる。1953年、岐阜県陶磁器試験場にて加藤幸兵衛の指導を受ける。1955年、同試験場主任技師に就任、このころ陶芸に進路を固める。1973年、可見市久々利に穴窯と登窯を築窯。2010年、重要無形文化財「瀬戸黒」認定保持者（人間国宝）。2012年、旭日小綬章受章。

1935年、岐阜県土岐市泉町に生まれる。1958年、武蔵野美術学校卒業。1960年、岐阜県陶磁器試験場デザイン室に勤務。日根野作三に出会い、師事。1981年、第39回ファエンツァ国際陶芸展買上賞受賞。2006年、岐阜県芸術文化顕彰。2013年、地域文化芸術功労表彰（文化庁）。2017年、日本陶磁協会賞金賞受賞。

会期中、関連イベントを開催予定です。 ●特別対談映像 加藤孝造 × 伊藤慶二 ●学芸員によるギャラリートーク
◎新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、変更が生じる可能性があります。最新情報はウェブサイトをご覧ください。

岐阜県現代陶芸美術館 MoMCAサテライトミュージアムについて

多治見市にある岐阜県現代陶芸美術館は近現代の陶芸を専門とする美術館です。2002年の開館から20周年を迎えるにあたって、設備改修工事のため2021年11月～2022年9月上旬の間、休館することとなりました。この間、県内各地で「MoMCAサテライトミュージアム」を開催します。各会場、異なる展示で当館コレクションをお楽しみいただけます。ぜひお越しください。

- 神戸町日比野五鳳記念美術館 12月11日(土)～2022年1月23日(日)
- 飛騨市美術館 2022年2月5日(土)～3月13日(日)

* MoMCA(もむか)とは…岐阜県現代陶芸美術館の英語名 Museum of Modern Ceramic Art, Gifuの略称。

●交通アクセス

